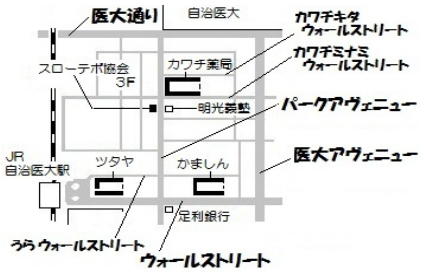
# スローテンポ通信

第 18 号

2018 年 6 月 30 日

発行：一般社団法人スローテンポ協会
〒329-0403 栃木県下野市医大前 3-7-4-3F
☎ 0285-35-2888
Eメール usagimokamemo@gmail.com
ブログ『うさぎもかめも』
http://usagimokamemo.blog.fc2.com/

## ☆ 道路にこんな愛称はどうですか?



埋もれかける本専門
**スローテンポ書店**
日曜・月曜・祝日休み

## ☆ 営業時間が便利になります

火金土曜　13 時～19 時
水木曜　　13 時～21 時

## ☆ 今月おすすめの本

### ①『フリッツバウアー アイヒマンを追いつめた検事長』

ローネン・シュタインケ、本田稔訳
アルファベータブックス 2017 年￥2500+税

戦後の日本とドイツの違いは、彼がドイツにいて日本にはいなかったことにある。歴史はささいな偶然によって大きく変わる。

### ②『道徳科の「授業革命」　人権を軸に』

園田雅春　解放出版社 2018 年　￥1800+税

道徳が教科となった。反対意見が多い中で、子どもたちが自由に語ること、人権を軸にすることの二つによって道徳教育は大いに成果を上げると説く。

### ③『キャバ嬢なめんな』

布施えり子　現代書館 2018 年　￥1300＋税

一時期女子高生人気ランキングにのった職業だから、ひそかに多くの女性が関わっている。女性に夢を抱かせ、とことんこき使い、ボロボロになったら捨てる。そんな業界にキャバクラユニオンを立ち上げ立ち向かった女性の痛快な奮戦期。日本を知るために必読の書。

# 大人は若者たちに何を残すのか

大人は子や孫に何を残すか。

先祖から受け継いだ田畑、家族への思いのつまった家、築き上げた財産などなど、残したいものはさまざまだ。多くの大人は、自分が最も大切にしている財産を残したいと願う。

ところが近頃は、自分では財産だと思っても、子や孫にとっては価値がなく返って迷惑であることがままある。苦労して到達した考え方を伝えたいと願っても、それすら押し付けだといって嫌われる。

おカネなら誰にとっても価値があると思い大金を残しても、配分を廻って醜い争いが頻発する。思い通りにならないのが世の常だ。

借金なら相続人が相続放棄することで解決できるが、資産を残すとそれが受け取る人間どうしの禍の種になる。そんなことなら、財産も借金も一切何も残さずきれいさっぱり片付けておくのが最もよいのかもしれない。

溜め込んだ預金をどう使えばよいのかがわからない人は、詐欺師に引っかかる前に当協会の基金に拠出するという方法もあります。夢が描ける活用方法をお示しいたします。

そんなことを考えているとき『**フリッツ・バウアー**』(今月おすすめの本の一つ)を読んだ。ドイツ人の多くは、子や孫たちにどんなドイツを残すのかを考えるようだ。ドイツ人に脱帽した。

ドイツの戦後は日本と同じような状況だった。多くの国民は戦争中の忌まわしい過去に蓋をして、新たに再出発したいと考えていた。

過去をほじくり出そうとする動きがあれば、政官やマスコミに生き残っていたナチス残党や関係者が、権力を行使して動きを妨害した。暗殺も横行した。事件があっても、マスコミが隠蔽し国民は無関心だった。

そんな中でフリッツ・バウアーは、子や孫たちにどんなドイツを残したいのかを考えた。

答えは明白だった。ドイツ国民一人一人が自信と誇りを持って歴史の事実に向き合い、反省すべきは反省し、世界から信頼されるドイツをつくり上げなければならない、という結論に達した。

検事長だった彼は、ドイツ人がホロコースト裁判を自分の問題として考えるように取り組んだ。

この本を読めば、彼の命がけの努力とその成果だけでなく、なぜ彼をそうさせたのかまでよくわかる。

戦後のドイツと日本との違いは、フリッツ・バウアーがドイツにいて、日本にはいなかったという違いのように思える。

日本の大人たちは、「近頃の若者は人の話を聞かない」と文句を言う前に、自分たちが若者に何を残したのかを見つめなければならない。

確かによいものもたくさん残している。

ワールドカップの試合終了後に日本人サポーターが自発的にごみ拾いをする姿や、地震津波や記録的豪雨によって大災害に遭っても、盗み、強盗などの騒ぎもなく秩序を守って助け合う姿は世界を感動させた。

その一方、日本では意欲ある若者も満足する職にありつけない。ずる賢い人間ばかりが成功し、正直者はバカをみる。何をやるにしても大人がつくった規則や慣習に縛られる。正義と道理が社会を支配するのではなく、カネと権力が支配する。

極めつけは原発だ。フクシマ原発事故を受け、「こんな厄介ものを子孫に残してはいけない」としてドイツは脱原発に方向転換したの対し、安部政権は、脱原発を望む過半数の世論を無視して、原発を維持稼動し続ける。

「長いものにまかれろ」という言葉が当たり前のように通用し、正論を主張する人間がバカにされる日本になってしまった。その結果、若者は選挙にも行かず社会に無関心になり、平気で「日本がどうなろうと自分には関係ない」と言う。

若者が「大人の話をきかない」のは当然だ。若者に無力感と閉塞感を残したのは大人たちだった。

それに気付いたなら、今からでも遅くはない。大人たちがまず最初にやるべきことは、子や孫たちに本当はどんな日本を残したいのかをよく考えることである。

N

**何でも話せる 懇話会**

**時間が変わりました。**
水曜日 **午後 7 時～9 時**、参加費無料。
どなたでも参加できます。

**読む人に伝わる 文章教室**

**時間が変わりました。**
毎週木曜日 **午後 7 時～9 時**、
参加費は資料代含めて、1 回 500 円。
参加随時、お問い合わせは当協会まで。